

2024年度「ヨーロッパの歴史・文化講座」年間計画 (コミュニティふらっと永福)

第4木曜日
時間:13:00~15:00

回	日付	テーマ	内容
第1回	4月25日 木	ヨーロッパ文化の源流①ギリシャ神話 ヘルメス, ヴィーナス, ディオニュソス	「ヨーロッパ文化の源流①ギリシャ神話」の第3回目。ギリシア神話の神々の中でも特に個性的な神を扱います。嘘つきと泥棒の神ヘルメス、愛欲と美の女神ヴィーナス、秩序を求めるアポロンと対照的に混沌を現出するディオニュソスの三神を多くの名画とともに見ていきます。
第2回	5月23日 木	ヨーロッパ文化の源流②キリスト教 「新約聖書」最後の晚餐～裁判	「ヨーロッパ文化の源流②キリスト教」の第3回目。いよいよエルサレム入城。ここで「最後の晚餐」、「ユダの裏切り」、「ゲッセマネの園での祈り」、逮捕、裁判が行われる。どのようにしてイエスは十字架刑に処せられることになったのか?『新約聖書』の記述をもとに、よく知られた多くの名画とともにみていく。
第3回	6月27日 木	カエサルとクレオパトラ	多くの映画でも描かれてきた二人。なぜカエサルはエジプトへやって来たのか?カエサルが内乱期のつかの間の休息をクレオパトラとエジプトで過ごした意味はどこにあったのか?カエサルの遺言になぜクレオパトラはショックを受けるのか?クレオパトラとの関係を通して偉大な改革者カエサルの実像に迫る。
第4回	8月22日 木	盛期ルネサンスとローマ教皇	ダ・ヴィンチ, ミケランジェロ, ラファエロが活躍した盛期ルネサンス。この時代の代表的ローマ教皇と言えばアレクサンドル6世, ユリウス2世, レオ10世, クレメンス7世。今のローマ教皇とはまるで異なる強烈な個性の持ち主だったこれらの教皇たちがルネサンスに果たした役割を考える。
第5回	9月26日 木	女王エリザベス対スペイン無敵艦隊	16世紀はスペインの世紀。「太陽の沈まぬ帝国」とまで呼ばれた。1588年、その強大国スペインの無敵艦隊を弱小国イングランドが撃破した。なぜそのようなことが可能だったのか?女王エリザベスはどのような方法でフェリペ2世のスペインに勝利をおさめることができたのか?エリザベスの指導力を考える。
第6回	10月24日 木	カラヴァッジョとバロック絵画の誕生	ローマのサン・ルイジ・デイ・フランチェージ教会が「バロック発祥の地」とされるのは、このコンタレツリ礼拝堂に「マタイの召命」があるから。作者は、カラヴァッジョ。徹底した写実性と劇的な明暗対比や感情表現で、あらゆるバロック期の画家に多大な影響を与えることになる彼の人生と作品の魅力を探る。
第7回	11月28日 木	フランス革命とマリー・アントワネット	14歳でフランスに嫁いだマリー・アントワネットは国民の熱狂的歓迎を受けた。その彼女が、フランス革命に遭遇し、「赤字夫人」、「オーストリア女」と罵られ、国民の憎悪の的になり、37歳で断頭台の露と消える。このマリー・アントワネットのドラマチックな人生とフランス革命の関わりについて考える。
第8回	1月23日 木	森鷗外とビスマルク時代のドイツ	森鷗外がドイツに留学したのは1884年から1887年。1871年に悲願のドイツ統一が達成されてから十数年後のこと。当時の帝国宰相は統一の立役者ビスマルク(皇帝はウィルヘルム1世)。鷗外をモデルとして書かれたとされる小説『舞姫』にも触れながら、当時のドイツの状況について考える。
第9回	2月27日 木	日露戦争と20世紀初頭のロシア	明治維新からわずか36年後の1904年、日本は世界一の陸軍国ロシアと戦争を開始する。ほとんどの国がロシアの勝利を予想する中、なぜ日本は開戦に踏み切ったのか?そして、多大の犠牲を払いながらもなぜ勝利することができたのか?これらについて、当時のロシアの状況にも触れながら考察する。
第10回	3月27日 木	フランスの食文化の多様性	マティスを虜にしたコート・ダジュールの中心都市ニース、ゴッホを生んだ陽光、色彩、「悪魔の風」が強烈なアルル、モネとゴーギャンの画家としての転機となったブルターニュをとりあげ、その風土、歴史、文化を通してそれぞれの地方の多様で豊かな食文化について考えます。